



駒澤大学0-0専修大学

開幕の出来は上々 課題は守備

引き分けに苦しい表情を見せる選手達(撮影 田中幸生)

5月3日 13:50 平塚球技場

駒大 0 (0-0) 0 専修大
(6位) (6位)

得点者 (アツト)

KOMAZAWA	SENSYUU
GK①松浦和己(4)	GK②長島 潤(0)
DF③砂川太志(4)	DF⑤能瀬俊充(3)
DF④林堂 眞(4)	DF④本名 正太郎(2)
DF⑩平尾優頼(1)	DF⑩玉田道歩(2)
DF⑥濱田 宙(4)	DF⑨後藤京介(1)
MF⑤山崎紘吉(4)	MF⑥庄司悦大(4)
MF⑩碓井鉄平(2)	MF⑦長沢和輝(2)
MF⑦奥村 情(3)	MF⑧牧内慶太(3)
(76分⑩真野直紀(3))	(62分⑩仲川輝人(1))
MF⑧湯澤洋介(3)	MF⑩町田 也真人(4)
FW⑨肝付将臣(4)	FW⑩中野翔太(3)
FW⑩山本大貴(2)	(67分⑨大西佑亮(3))
(72分⑩渡邊 諒(4))	FW⑩飯田裕之(3)
S U B	S U B
GK②大石健太(2)	GK①朴 泰希(4)
DF⑩三澤祥馬(3)	DF⑨栗山直樹(3)
MF⑩水野裕之(2)	DF②松本陽介(4)
MF⑩宮城雅史(3)	MF⑩河津良一(1)
MF⑩板倉直紀(1)	MF⑩下田北斗(2)
MANAGER	MANAGER
秋田浩一	源平貴久
[シュート]10:7 [GK]7:10 [CK]5:2 [直接FK]15:20	
[間接FK]7:3 [主審]地主尚和 [観衆]約400人	
警告(C)/退場(S)	
[駒]46分:山本大貴(C) 51分:砂川太志(C) 78分:碓井鉄平(C)	
80分:肝付	
※データの左側が駒大	

顔ぶれが一新

昨年6年ぶりに総理大臣杯を優勝したが、チームを優勝へ牽引したメンバー達は卒業した。開幕戦の重要さというものは、選手たちには今後のリーグを戦う上で重要な一戦となった。

開始直後から、専修大のパスサッカーに、粘り強く守備を固める展開が続く。3分奥村のヘディングシュートから、リズムをつかみ始める。奥村と湯澤の両サイドハーフからチャンスを作り出していく。駒大は、サイドに起点を置き、湯澤と奥村と碓井が連動し、相手のDF陣を崩そうとした。しかし、20分過ぎから専修大も攻勢を強めてくる。

22分に駒大のDFラインの一瞬の隙を突かれて、ピンチを迎えるが、リーグ戦初先発のGK松浦がファインセーブを見せる。その後も、相手の両サイドハーフのスピードを生かされてピンチを迎えてしまう。再三の好セーブを見せた松浦は「味方がコースを切ってくれて、味方あっての自分のセーブです。」と試合後語った。やや守備に不安を抱えながらも、リーグ初先発に抜擢された平尾も「色々と背負うものは大きかったが、みんなのために体を張って頑張ろうという思いで今日頑張った」

勝利を目指し後半を迎える。

後半開始から、碓井が前を向いたプレーが目立ち、徐々にチャンスが生まれる。碓井が見つないボールから、湯澤が逆サイドへ展開し、走りこんだ砂川がダイレクトでシュートを打つが、ボールはクロスバーをたたくがゴールからは外れる。直後にカウンターから一気に相手ゴールに詰めるが、オフサイドの判定により得点にならず。すると足が止まってきたところを突かれピンチを迎える。

試合終了が近づくとつれて、DFラインの裏を突くスルーパスが何本も通ってくる相手にGK松浦が好セーブを連発する。昨季まで駒大の絶対的守護神だったGK岡を思い出させるくらいであった。そして、試合は終了し、2011年の開幕戦は引き分けで終わった。

年度が変わり、選手の顔ぶれもガラッと変わってしまったが、新主将となった林堂は「キーパーも代わったし、FWの軸もいなくなったし、守備の軸もいなくなった。僕がちゃんと頑張らなければならないと思います。」と試合後に語った。初勝利に向けては、2列目の攻撃参加と守備が重要だ。
西山裕之